

報道関係者各位
 ご取材用資料

令和4年度 日本遺産「里沼」セミナー 日本遺産を活かしたまちづくり

近隣認定地の取組みを学び、「里沼」の活性化につなげます！

館林市では、令和5年1月29日(日)に日本遺産「里沼」セミナー「日本遺産を活かしたまちづくり」を開催します。令和元年5月の文化庁認定から3年9か月を経過し、市内外からの認知度も高まり、市内の5つの沼への来訪者も増加している日本遺産「里沼」。近隣の認定地で活躍している担当者のかたをお迎えし、特色ある取組みを紹介していただきながら、今後の「里沼」の魅力度アップや満足度強化につなげます。



令和4年度 日本遺産「里沼」セミナー 日本遺産を活かしたまちづくり

- 期日：令和5年1月29日(日) 14:00～16:00 (開場 13:30)
- 会場：館林市文化会館小ホール (〒374-0018 群馬県館林市城町3番1号)
- 主催：館林市・館林市教育委員会・館林市「日本遺産」推進協議会
- 募集：80名(先着順) ■申込：(A) 1/4(水)9:00～ ぐんま電子申請受付システム
(B) FAX 0276-74-4113
(C) メール nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp

■内容：

- (1)アトラクション「里沼の記憶」 解説：滝沢昌之さん(作曲家)
- (2)日本遺産「里沼」の近況報告 報告：館林市教育委員会文化振興課
- (3)近隣の日本遺産認定地の事例紹介
 - ①栃木県宇都宮市「日本遺産を活用した地域活性化の取組み～大谷石文化の息づくまち宇都宮～」
講師：宇都宮市教育委員会 文化課 文化財活用推進担当 主幹 今平利幸さん
 - ②茨城県笠間市「シリアル型認定「かさまじこ」の取組みについて」
講師：笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課 文化振興室 室長 柴田裕実さん
 - ③埼玉県行田市「足袋蔵を活かしたまちづくり～足袋とくらしの博物館を中心に～」
講師：行田市教育委員会 文化財保護課 課長 中島洋一さん

※当セミナーの様子は、YouTube 館林市公式動画チャンネルでLIVE 配信予定です。

※「里沼」セミナーとしての開催は、令和4年度が初開催となります。

過去の日本遺産「里沼」関連シンポジウム

- 令和元年度 日本遺産認定記念「里沼」シンポジウム
 - ・令和2年2月11日(火・祝)13:30～16:00 ・館林市三の丸芸術ホール
 - ・参加者数 300名
 - ・①基調講演「日本遺産を」活かす視点と手法(丁野朗先生) ②上三林ささら演舞
 - ③パネルディスカッション「日本遺産「里沼」と館林の未来～ヌメーションを合言葉に～」
- 令和2年度 日本遺産シンポジウム「つなごう日本遺産～両毛3市の魅力発信」
 - ・令和3年2月21日(日)13:30～16:00 ・館林市文化会館カルピスホール
 - ・参加者数 400名
 - ・①両毛3市の日本遺産認定ストーリー紹介 ②パネルディスカッション「里沼物語」
 - ③パネルディスカッション「両毛3市の歴史文化を軸としたローカル・ディスカッション」
- 令和3年度 日本遺産シンポジウム in 桐生
 - ・令和4年2月5日(土)13:30～15:00 ・桐生市有鄰館煉瓦蔵
 - ・参加者数 50名
 - ・①桐生祇園囃子演奏会
 - ②両毛3市連携パネルディスカッション「歴史文化で紡ぐ三都市ものがたり」
- 令和4年度 日本遺産シンポジウム in 足利 【予定】
 - ・令和5年2月5日(日)13:30～15:00 ・栃木県南地域地場産業振興センター
 - ・募集 200名 (1/10～足利市教育委員会文化課にて募集)
 - ・①両毛3市の日本遺産ストーリー映像紹介
 - ②アトラクション(足利カンマーオーケスター)
 - ③両毛3市長パネルディスカッション「日本遺産で人を育みあおう」



問合せ先

館林市教育委員会
 文化振興課 日本遺産推進係
 〒374-0018 群馬県館林市城町3-1
 電話：0276-71-4111
 FAX：0276-74-4113
 メール：nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp
 ツイッター：@ta_satonuma2019

1. 日本遺産制度

・「日本遺産」とは

平成27年度に文化庁が創設した制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化や伝統を語るストーリーを、「日本遺産」として認定するものです。

・「日本遺産」とまちづくり

まず、「日本遺産」には、文化財をはじめとする個々の構成資産の存在価値を高める利点があります。地元住民が今まで見過ごしていた、普段の暮らしの中において、自分たちの地域の魅力を再認識し、文化財などの資産を保全・活用することを促すとともに、地域活性化や魅力あるまちづくりへの気運の醸成へと繋げることができ、また、認定件数を一定程度(東京五輪開催がある令和2年度まで、合計104件)に限っているため、ブランド力が生まれます。地域の認知度向上やインバウンド事業など、観光振興をもたらす起爆剤になる可能性があります。



・「日本遺産」申請要件

「日本遺産」の申請は、「地域型」と「シリアル型」の2タイプがあります。「地域型」は単独の自治体で申請が可能ですが、文化財の保護・活用に関する計画の策定が前提となります。一方の「シリアル型」は、複数の自治体が共通するストーリーで共同申請するものです。

地域型	以下のいずれかを満たす自治体が単独で申請するもの	
	A	歴史文化基本構想が策定済であること
	B	歴史的風致維持向上計画が策定済であること
シリアル型	世界遺産を有するか、その国内暫定リストに登載済であること	
	ストーリーを共有する複数自治体が申請するもの	

※上記以外に構成文化財に国指定文化財を必ず1つ含めることも条件になります。

・「日本遺産」認定の基準

「日本遺産」認定の基準は次の3つです。ストーリーの面白さは当然のことながら、「日本遺産」認定後の情報発信や活用事業などまちづくりの取組も審査の対象となります。

基準1	ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的特徴・特色を示すものであり、かつ我が国の魅力を十分に伝えるものになっていること
基準2	日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像(ビジョン)と、実現に向けた具体的な方策が適切に示されていること
基準3	ストーリーの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること

2. 日本遺産認定状況

・「日本遺産」認定状況

毎年1月に都道府県教育委員会を通じて文化庁に申請書を提出し、文化庁及び日本遺産審査委員会による審査が行われます。厳正なる審査を経て、5月に認定結果の発表及び認定証の交付式が行われます。令和元年度までに83件が認定されています。

認定年度	申請	認定	採択率	備考
平成27年	83件	18件	21.7%	シリアル型(足利市等)・シリアル型(桐生市等)
平成28年	67件	19件	28.4%	
平成29年	79件	17件	21.5%	地域型(行田市)
平成30年	76件	13件	17.1%	地域型(宇都宮市)、シリアル型(那須町等)
令和元年	72件	16件	22.2%	地域型(館林市)
令和2年	69件	21件	30.4%	地域型(八王子市)、シリアル型(益子町・笠間市)
合計	446件	104件	23.3%	

・近隣の「日本遺産」認定事例

館林市近隣で「日本遺産」認定を受けている自治体は次のとおりです。

No.	自治体名	認定年度	類型	ストーリータイトル
①	桐生市(群馬県)	平成27年	シリアル型	「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」
②	足利市(栃木県)	平成27年	シリアル型	「近世日本の教育遺産群ー学ぶ心・礼節の本源ー」
③	行田市(埼玉県)	平成29年	地域型	「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」
④	宇都宮市(栃木県)	平成30年	地域型	「地下迷宮の秘密を探る旅ー大谷石文化が息づくまち宇都宮ー」
⑤	館林市(群馬県)	令和元年	地域型	「里沼(SATO-NUMA)ー『祈り』『実り』『守り』の沼が響き上げた館林の沼辺文化ー」
⑥	牛久市(茨城県)	令和2年	シリアル型	日本ワイン140年史ー国産ブドウで醸造する和 문화の結晶ー
⑦	益子町(栃木県)・笠間市(茨城県)	令和2年	シリアル型	かさましこー兄弟産地が紡ぐ「焼き物語」ー
⑧	八王子市(東京都)	令和2年	地域型	靈氣満山 高尾山ー人々の祈りが紡ぐ桑都物語ー

3. 推進協議会事業(令和元～3年度)

《人材育成事業》①里沼ランドナビゲーター育成支援事業

③館林市「日本遺産」地域プロデューサー活動支援事業

⑤「里沼」体感！ワークショップ事業

《普及啓発事業》①館林市「日本遺産」展示会開催事業

《調査研究事業》①館林市「日本遺産」戦略的マーケティング調査事業

《情報発信分野》①「文化財×カス」民間促進のためのPR支援事業

③館林市「日本遺産」パンフレット作成・多言語化事業

《活用整備分野》①館林市「日本遺産」案内板・サイン整備改修事業

③館林市「日本遺産」麦食・川魚食文化PR事業

⑤AR利用促進Wi-Fi環境整備事業

②館林市「日本遺産」ブランド開発事業

④官学連携「SATO-NUMA」事業

②館林市「日本遺産」シンポジウム開催事業

②館林市「日本遺産」旅客ニーズ調査事業

②館林市「日本遺産」Webサイト開設事業

②館林市まちじゅう「日本遺産」PR事業

④館林市「日本遺産」ガダソンセンター映像制作事業

※令和4年度以降も引続き上記事業について事業効果を精査・再編(全10事業)しながら同協議会として実施中

1/29(日)
14-16時

令和4年度 日本遺産「里沼」セミナー 日本遺産を活かしたまちづくり



■期 日：令和5年1月29日 14:00～16:00 (開場13:30)

■会 場：館林市文化会館小ホール (〒374-0018 群馬県館林市城町3-1)

■参加者募集：80名

※申込方法

- (A) 1/4(水)9:00～ ぐんま電子申請受付システム
- (B) FAX(0276-74-4113)
- (C) メール(nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp)



電子申請QR

■内 容：

- (1)アトラクション「里沼の記憶」 解説：滝沢昌之さん(作曲家)
- (2)日本遺産「里沼」の近況報告 報告：館林市教育委員会文化振興課
- (3)近隣の日本遺産認定地の事例紹介 *先進認定地の特色ある取組みをご紹介します
 - ①栃木県宇都宮市「日本遺産を活用した地域活性化の取組み～大谷石文化の息づくまち宇都宮～」
講師：宇都宮市教育委員会 文化課 文化財活用推進担当 主幹 今平利幸さん
 - ②茨城県笠間市「シリアル型認定「かさましこ」の取組みについて」
講師：笠間市教育委員会 教育部 生涯学習課 文化振興室 室長 柴田裕実さん
 - ③埼玉県行田市「足袋蔵を活かしたまちづくり～足袋とくらしの博物館を中心に～」
講師：行田市教育委員会 文化財保護課 課長 中島洋一さん

*当セミナーの様子は、YouTube 館林市公式動画チャンネルでLIVE 配信予定です。(アーカイブあり)



里沼WEBサイト

主催：館林市・館林市教育委員会・館林市「日本遺産」推進協議会



サトヌマちゅん



里沼(SATO-NUMA)

—「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化—



里沼(「祈りの沼・茂林寺沼」、「実りの沼・多々良沼」、「守りの沼・城沼」)

■ストーリー概要

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO-NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼は「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつつじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を辿れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体感することができる。

■主な構成文化財

- ・茂林寺沼及び低地湿原
- ・堀工町のどんと焼き
- ・多々良沼
- ・上三林のささら
- ・城沼
- ・館林城(三の丸土橋門・城沼墾田碑)
- ・尾曳稲荷神社
- ・躑躅ヶ岡(つつじが岡公園)
- ・創業期日清製粉館林工場事務所(製粉ミュージアム本館)
- ・川魚料理(鯰・鯉・鮒・鰻料理)
- ・館林のうどん
- ・麦落雁
- ・蛇沼及び間堀遺跡出土品
- ・近藤沼(ホリアゲタ)
- ・長良神社と館林城下町の総構え
- ・織姫神社と館林紬

地下迷宮の秘密を探る旅
～大谷石文化が息づくまち宇都宮～

大谷観音(大谷磨崖仏・特別史跡)



カネイリヤマ採石場跡地(大谷資料館)

■ストーリー概要

冷気が張りつめるこの空間は一体、どこまで続き、降りていくのだろうか。壁がせり立つ巨大な空間には、柱が整然と並び、灯された明かりと柱の影が幾重にも続く。柱と柱の間を曲がると、同じ光景がまた目前に広がり、しだいに方向感覚が失われていく。江戸時代に始まった大谷石採掘は、最盛期に年間89万トンを出荷する日本屈指の採石産業として発展し、地下に巨大な迷宮を産み出していった。大谷石の産地・宇都宮では、石を「ほる」文化、掘り出された石を变幻自在に使いこなす文化が連綿と受け継がれ、この地を訪れる人々を魅了する。

■主な構成文化財

- ・カネイリヤマ採石場跡地(大谷資料館)
- ・大谷磨崖仏
- ・カトリック松が峰教会
- ・旧篠原家住宅
- ・カネホン採石場(高橋佑知商店)

かさましこ
～兄弟産地が紡ぐ“焼き物語”～

窯焚き(益子町)



笠間の陶炎祭(笠間市)

■ストーリー概要

東日本屈指の窯業地「かさましこ」(茨城県笠間市と栃木県益子町)は、窯業や統治者によって古代から同じ文化圏でした。江戸時代に入り別々の道を歩みますが、18世紀後半から再び、製陶を通じてつながり合った地域です。使い勝手のいい日用品を作り続けていたこの地は、存続の危機に陥ると時代に合わせた革新に挑み、多様な作風を許容する産地へと変化しました。自由でおおらかな環境が創造する者を惹きつけ、今では600名を超える陶芸家が活躍しています。美意識を追求し美しい生活造形を生み出す「かさましこ」は、訪れる人の五感をも刺激し、暮らしに寄り添う独自の陶文化を醸成しているのです。

■主な構成文化財

- ・地藏院本堂
- ・西明寺(三重塔、楼門、本堂内厨子)
- ・根古屋窯(旧益子陶器伝習所)
- ・楞厳寺(山門、木造千手観音立像)
- ・久野陶園

和装文化の足元を支え続ける
足袋蔵のまち行田

旧忍町信用組合店舗



行田足袋

■ストーリー概要

忍城の城下町行田の裏通りを歩くと、時折ミシンの音が響き、土蔵、石蔵、モルタル蔵など多彩な足袋の倉庫「足袋蔵」が姿を現す。行田足袋の始まりは約300年前。武士の妻たちの内職であった行田足袋は、やがて名産品として広く知れ渡り、最盛期には全国の約8割の足袋を生産するまでに発展した。それと共に明治時代後半から足袋蔵が次々と建てられていった。今も日本一の足袋産地として和装文化の足元を支え続ける行田には、多くの足袋蔵等歴史的建造物が残り、趣きある景観を形づくっている。

■主な構成文化財

- ・旧忍町信用組合店舗
- ・足袋蔵まちづくりミュージアム(栗代蔵)
- ・牧野本店店蔵・主屋・土蔵・足袋とくらしの博物館
- ・行田足袋
- ・忍城跡

